

# 平成 29 年度 東商エコリーグ 事業報告書

平成 30 年 6 月

## ■事業概況:

<全体傾向(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)>

平成 30 年 3 月末現在の参加事業者数は、1,628 件で対前年度比+67 件(+約 4%)に増加した。参加事業者数は 4 年連続で増加傾向にある。

年間回収量は、約 1,358 トンで、対前年度比は約 26 トン(+約 2%)と微増した。一昨年まで 3 年連続減少傾向にあったが、平成 28 年度より参加事業者数が増加傾向に転じたため、合計量の下降傾向に歯止めがかかった結果となった。参加事業所数・回収量の増減傾向は各地区各様であるが、事業所数は全 10 地区中 4 地区が増加、1 地区が減少した。回収量では、5 地区が増加、5 地区が減少した。

<地域別傾向>

参加事業所数増加区は、港(+17)、墨田(+4)世田谷(+45 社)北(+4 社)の 4 地区で昨年より 1 地区増加した。一方、減少区は、太田(-3 社)の 1 区で昨年より 2 地区減少した。

回収量の増加区は台東(+約 18.5 トン)、墨田(+約 13.0 トン)、江東(+約 0.7 トン)、世田谷(+約 4.8 トン)、北(+約 3.1 トン)の 5 地区で昨年より 1 地区増えた。他方、減少区は港(-約 3.7 トン)、新宿(-約 2.4 トン)、太田(-約 2.8 トン)、荒川(-約 1.0 トン)、渋谷(-約 3.8 トン)の 5 地区で昨年より 1 区減った。

<所感>

当年度は、参加事業所数・回収量ともに昨年度と比較すると、プラスに転じた地区が増加し、マイナス地区が減少したため、総じて好転した地区が増えた結果となった。参加事業所の伸び率は+4%であるものの、回収量が+2%にとどまっていることから、古紙発生量が緩やかに減少していることがうかがえる。

他方、昨夏より徐々に影響がはじまった中国のミックス古紙輸入禁止措置の影響により、古紙価格は年度末にかけて下落傾向に陥り、平成 25 年度以降より堅調に推移してきた市場は、混乱を呈した。当面国際マーケットの市場動向に注視し続ける必要がある。

東商エコリーグは、一般の資源回収業者や廃棄物処理事業者では回収条件が悪く対応しづらいとされる少量排出の小規模事業所を対象としている。平成 29 年 10 月 1 日より 23 区の廃棄物処理料金(現行 36.5 円/Kg)が値上改定された。このことは、当年度の参加事業所の増加要因に一部寄与したと考えられるが、地区によって効果は限定的である。行政回収や集団回収ルートに小規模事業所の資源がただのり排出されないよう、行政によって資源排出ルールの指導・徹底や小規模事業者の処理責任意識の向上策が継続的に展開されるよう、東京都、23 区等と連携・協力しながら、エコリーグ事業の強化策を展開する必要がある。

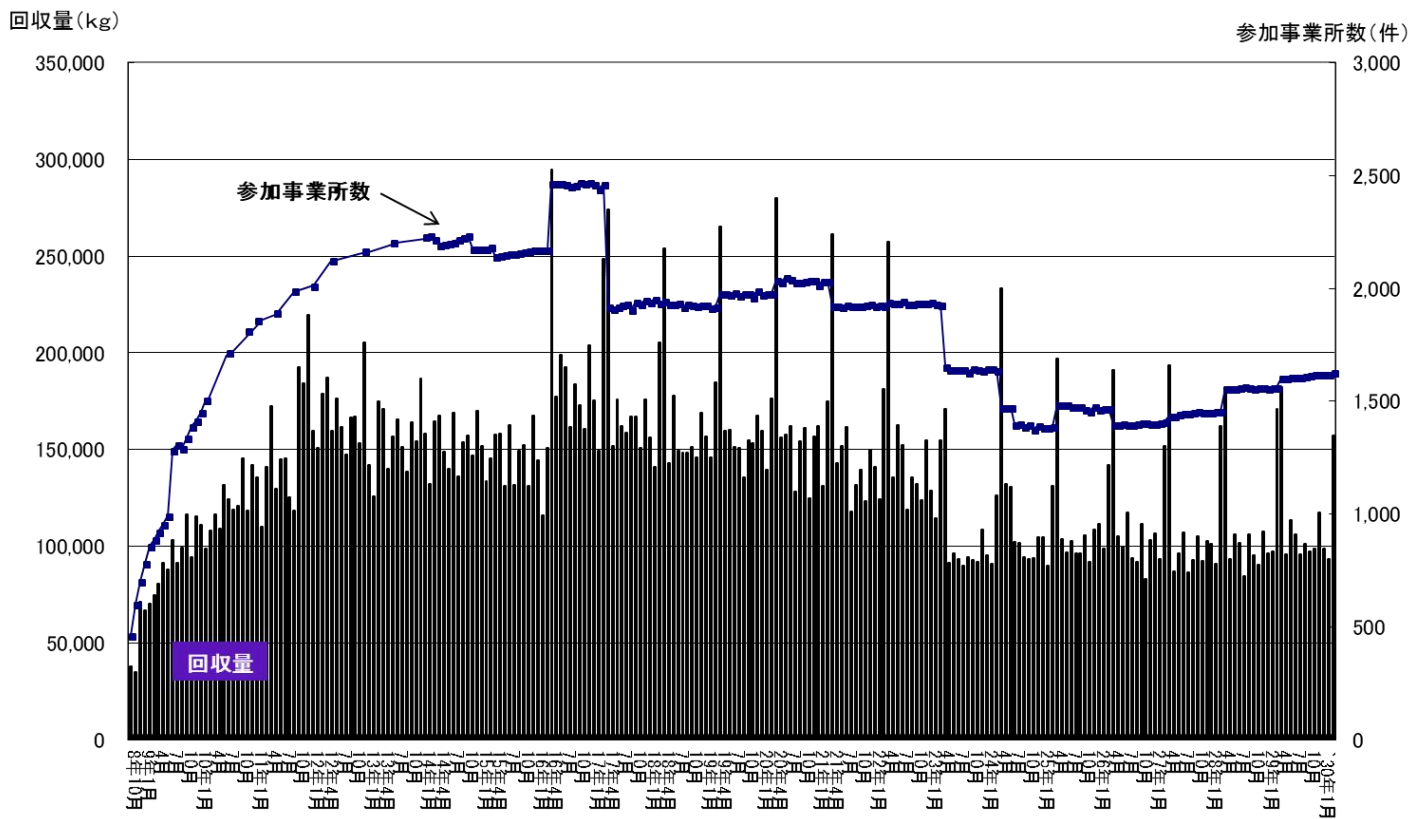
一部行政においては、2 年後に控えた東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、より質の高いリサイクルシステムの見直しが検討されはじめた。小規模事業所のリサイクル促進の気運が、官民一体となって高まることを期待したい。

報告書作成: 東リ協会(公益社団法人東京都リサイクル事業協会)IBR団連(東京都リサイクル事業団体連合会)

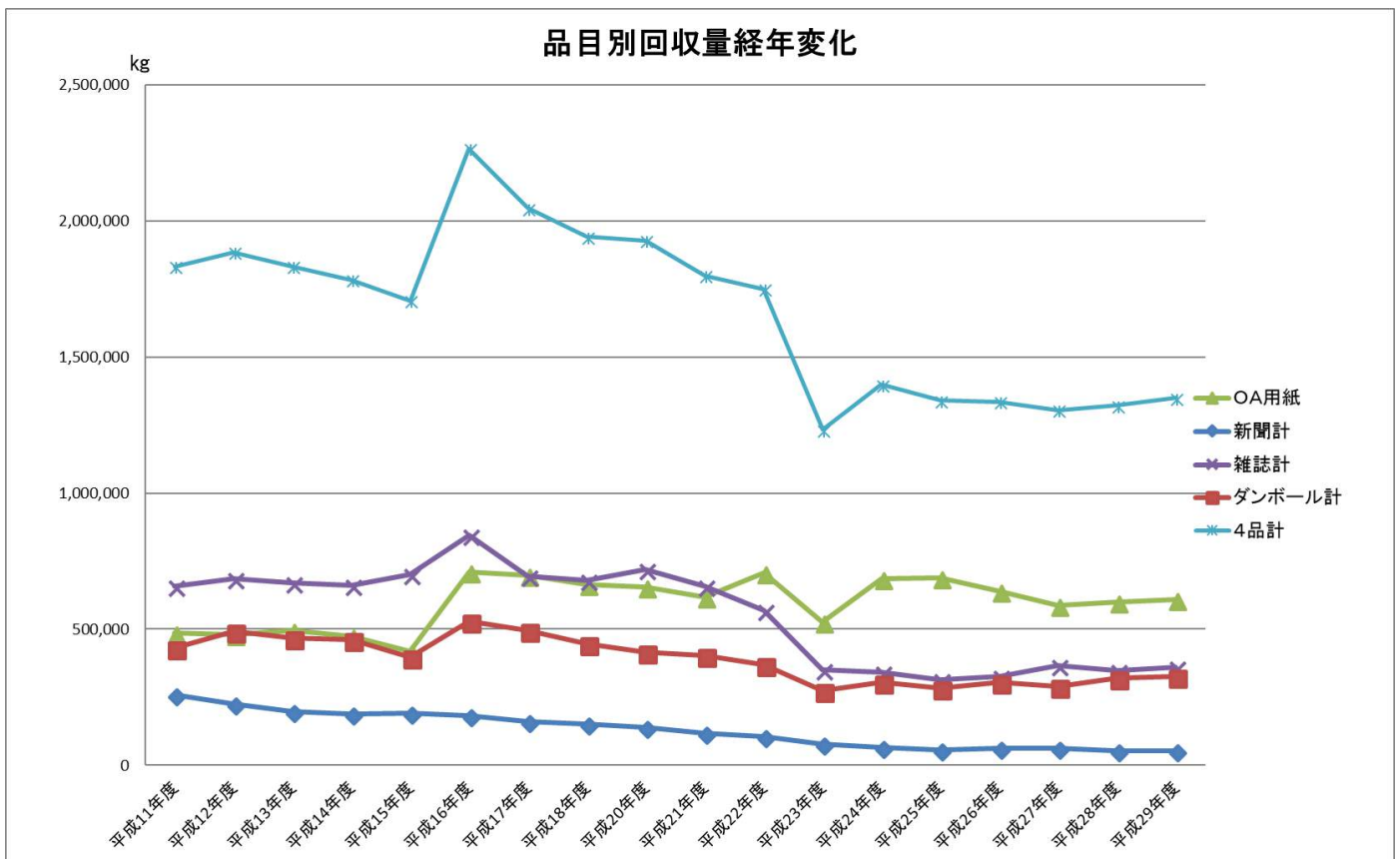
〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040



## ■回収量と参加事業所数の推移

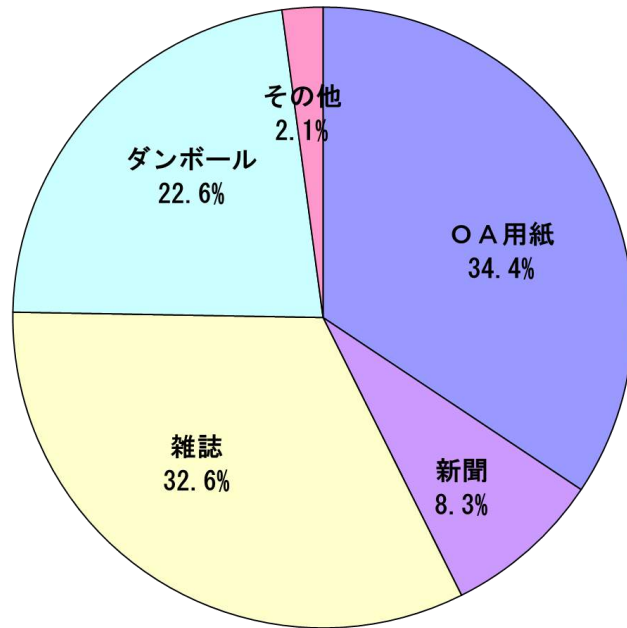


## ■品目別回収量経年変化



## ■回収古紙別割合(平成8年10月～平成30年3月)

東商エコリーグ 回収古紙別割合 (平成8年10月～平成30年3月)



過去 21 年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌、コピー用紙及び連続用紙などの OA 用紙等が全体の約 7 割(67%)を占めている。OA 用紙(34.4%)・雑誌(32.6%)。ついで段ボールなどの梱包材が約2割(22.6%)、新聞古紙が約1割(8.3%)の組成となっている。

## ■古紙価格の推移

